

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM/MT 専攻

授業科目 (科目ID)	スポーツコンディショニングⅡ 19t301	担当教員 (実務経験)	土岐 政義 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	スポーツ選手のみならず、ジュニアから高齢者までどのような対象者でも対応できるコンディショニング方法を実践し、指導方法を理解することを目的とする。				
到達目標	アスリートに対するコンディショニング(特にトレーニング)が出来る。ジュニア、高齢者への運動指導が出来る。				
テキスト・ 参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目6 予防とコンディショニング				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	定期試験の結果、レポート、その他(授業態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	特になし。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容の説明、諸注意、その他		
	2	姿勢評価方法	静的、動的姿勢評価		
	3	各競技におけるコンディショニングの注意点	指導現場に必要な能力		
	4	コンディショニングの実践	球技系コンディショニング サッカー①		
	5	コンディショニングの実践	球技系コンディショニングの実践 サッカー②		
	6	コンディショニングの実践	球技系コンディショニング バスケット①		
	7	コンディショニングの実践	球技系コンディショニングの実践 バスケット②		
	8	コンディショニングの実践	球技系コンディショニング 野球①		
	9	コンディショニングの実践	球技系コンディショニングの実践 野球②		
	10	コンディショニングの実践	球技系コンディショニング バレー①		
	11	コンディショニングの実践	球技系コンディショニングの実践 バレー②		
	12	コンディショニングの実践	球技系コンディショニング バドミントン①		
	13	コンディショニングの実践	球技系コンディショニングの実践 バドミントン②		
	14	前期のまとめ①	前期範囲のまとめ		
15	前期のまとめ②	前期範囲のまとめ			

	16	各年代におけるコンディショニングの注意点	指導現場で必要な能力
	17	ジュニア世代におけるコンディショニング	スタビリティトレーニングの計画
	18	ジュニア世代におけるコンディショニング	スタビリティトレーニングの実践
	19	ジュニア世代におけるコンディショニング	アジリティトレーニングの計画
	20	ジュニア世代におけるコンディショニング	アジリティトレーニング実践
	21	ジュニア世代におけるコンディショニング	コーディネーショントレーニングの計画
	22	ジュニア世代におけるコンディショニング	コーディネーショントレーニングの実践
	23	高齢者への運動指導	高齢者運動指導のポイント、注意点
	24	高齢者への運動指導	高齢者運動指導の実践
	25	一般層への運動指導	指導ポイント、注意点
	26	一般層への運動指導	運動への動機づけについて
	27	一般層への運動指導	ダイエット方法(食事療法、運動療法)について
	28	一般層への運動指導	ダイエットの実践報告
	29	後期まとめ①	後期範囲のまとめ
	30	後期まとめ②	後期範囲のまとめ

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／MT 専攻

授業科目 (科目ID)	測定と評価Ⅱ 19t302		担当教員 (実務経験)	平間 康允 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。体力測定を通して、測定技術及び自身の体力の向上を目指す。				
到達目標	各種測定の目的・方法・留意点・評価基準について説明できる。 自ら環境を整え測定を実施できる。測定結果を的確に判断し、相手にアドバイスできる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	試験、レポート、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	教科書、配布プリントを中心に講義を進める。定期的な各種体力測定を含む実技も毎回実施し、体験的に学習していく。スポーツ指導者として必要不可欠な測定と評価について、配布資料を中心に、重要な部分は繰り返し行います。毎回実技を行いますので、上靴・ジャージ・ハーフパンツ等を忘れないようにして下さい。体力測定を行う際は、測定対象者(選手役)としても記録向上を目指す姿勢を期待します。何事も「楽しく、一生懸命に」取り組んでいきましょう！				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	オリエンテーション、復習		オリエンテーション、2年次の復習	
	2	体力測定(1)		・股関節の柔軟性測定①	
	3	体力測定(2)		・股関節の柔軟性測定②(※前時のフィードバック含む)	
	4	体力測定(3)		・瞬発力の測定①(※前時のフィードバック含む)	
	5	体力測定(4)		・瞬発力の測定②(※前時のフィードバック含む)	
	6	体力測定(5)		・スプリント測定①(※前時のフィードバック含む)	
	7	体力測定(6)		・スプリント測定②(※前時のフィードバック含む)	
	8	体力測定(7)		・瞬発力&スプリント測定③(※前時のフィードバック含む)	
	9	体力測定(8)		・筋持久力の測定①(※前時のフィードバック含む)	
	10	体力測定(9)		・筋持久力の測定②(※前時のフィードバック含む)	
	11	体力測定(10)		・全身持久力の測定①(※前時のフィードバック含む)	
	12	体力測定(11)		・全身持久力の測定②(※前時のフィードバック含む)	
	13	体力測定(12)		・基礎体力の測定①(※前時のフィードバック含む)	
	14	体力測定(13)		・基礎体力の測定②(※前時のフィードバック含む)	
15	前期のまとめ		・テスト対策		

	16	体力測定(14)	・敏捷性の測定①
	17	体力測定(15)	・敏捷性の測定② (※前時のフィードバック含む)
	18	体力測定(16)	・敏捷性の測定③ (※前時のフィードバック含む)
	19	体力測定(17)	・敏捷性の測定④ (※前時のフィードバック含む)
	20	体力測定(18)	・平衡性の測定① (※前時のフィードバック含む)
	21	体力測定(19)	・平衡性の測定② (※前時のフィードバック含む)
	22	体力測定(20)	・測定種目の考案・改善 (※前時のフィードバック含む)
	23	体力測定(21)	・肩関節の柔軟性測定①(※前時のフィードバック含む)
	24	体力測定(22)	・肩関節の柔軟性測定②(※前時のフィードバック含む)
	25	体力測定(23)	・全身のパワーの測定①(※前時のフィードバック含む)
	26	体力測定(24)	・全身のパワーの測定②(※前時のフィードバック含む)
	27	体力測定(25)	・スポーツビジョン測定①(※前時のフィードバック含む)
	28	体力測定(26)	・スポーツビジョン測定②(※前時のフィードバック含む)
	29	まとめ	・テスト対策
	30	総括	・講義全体のまとめ

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
SMⅢ／AT・MTⅢ／SP・PEⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	トレーニングにおけるエクササイズテクニック 19t303 / 19s233		担当教員 (実務経験)	大菅 貴広 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者	
対象年次・学期	3年／2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	レジスタンストレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、安全で効果的なトレーニングエクササイズの方法を理論的に習得するとともに、指導現場での活用法を学ぶ。				
到達目標	トレーニング指導の際、トレーニングエクササイズを考え説明できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項	JATIテキストに沿って授業を展開していきます。指導現場の動画や画像を使用しイメージしやすく、自分で考えて仕事に結びつけられるように様々なツールも使用します。現場では様々な理不尽があり、タフなトレーナーでなくてははいけません。授業で学んだことを即実践できるように取り組みましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容	
	1	オリエンテーション、トレーニング指導者論1		学習到達目標、JATIについて、トレーニング指導者の活動フィールド	
	2	トレーニング指導者論2		トレーニング指導者の資質、行動と倫理	
	3	筋カトレーニングの実際1		エクササイズと動作スピード、補助者の役割、HIT:ハインテンシティトレーニング、LMT:ローデッドムーブメントトレーニング	
	4	筋カトレーニングの実際2		バーの握り方、呼吸テクニック、ベルトの使用	
	5	筋カトレーニングの実際3		胸部のエクササイズ～肩甲骨と胸郭の重要性～、トレーニングマシンの種類	
	6	筋カトレーニングの実際4		背部のエクササイズ～背部エクササイズが難しい理由～	
	7	筋カトレーニングの実際5、理解度確認テスト		肩部のエクササイズ～障害との関わり～、理解度確認テスト、ケーススタディ	
	8	筋カトレーニングの実際6		上腕のエクササイズ1、～オーバーヘッド動作との関わり～	
	9	前講義までの復習		復習プリントへ①	
	10	筋カトレーニングの実際7		上腕のエクササイズ2～より効果を引き出すために～、サルコペニア、高齢者に対するトレーニングプログラム	
	11	筋カトレーニングの実際8		大腿部及び股関節周辺部のエクササイズ1	
	12	筋カトレーニングの実際9		大腿部及び股関節周辺部のエクササイズ2	
	13	パワー向上トレーニングの実際1		クイックリフト(クリーン、スナッチ、ジャーク)	
	14	パワー向上トレーニングの実際2		クイックリフト(クリーン、スナッチ、ジャーク)	
15	講義のまとめ、復習		復習プリント②、定期試験に向けて		

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科
SM／AT・MT 専攻

授業科目 (科目ID)	トレーニング科学 19t304	担当教員 (実務経験)	大菅 貴広 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	トレーニングを多角的側面から捉え、競技スポーツや一般層との関連を学び、様々な角度から「科学的にトレーニングを理解」する。				
到達目標	現代社会のニーズに対応し、科学的根拠を持った指導ができるようになる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項	板書・各種資料をベースに、動画や実践事例を交えて授業を展開していく、様々なトレーニングが現場で指導されている中、良い悪いを決めるのではなく、クライアントに合わせたトレーニング指導ができることを目指し、客観的視野から分析を行い、今後に活かしてもらいたいです。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・トレーニング業界	学習到達目標・トレーニング業界について		
	2	様々なトレーニング法	スロートレーニング・加圧トレーニング・初動負荷理論など		
	3	トレーニングビジネスの可能性	今後のトレーニングビジネスを広げるために科学をどう活かすか		
	4	トレーニングQ&A	最新トレーニング理論		
	5	ジュニアの筋力トレーニング	ジュニアの現状と課題		
	6	高齢者のトレーニング①	高齢者の現状・実践報告		
	7	高齢者のトレーニング②	高齢者指導ビジネスの今後に関して		
	8	高齢者のトレーニング③	今後のトレーニング指導の可能性を探す		
	9	iPadの活用方法①	即時フィードバックへの活用と選手への見せ方		
	10	iPadの活用方法②	アプリの活用		
	11	ダッシュ力を高めるトレーニング	ダッシュ力向上のための分析とトレーニング法		
	12	パワーを高めるトレーニング①	パワー向上のためのトレーニング方法		
	13	パワーを高めるトレーニング②	パワー向上のためのトレーニング方法		
	14	トレーニング指導者としてのビジョン	今後、業界はどのように動いていくのか。どうすべきか		
15	まとめ	半期の復習・定期試験に向けて			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
SMⅢ／AT・MTⅢ／SP・PEⅡ 専攻

授業科目 (科目ID)	各種トレーニング法の理論とプログラム 19t305 / 19s232	担当教員 (実務経験)	菊池 諒 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者		
対象年次・学期	3年／2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋カトレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。				
到達目標	科学的根拠に基づいたトレーニングプログラムを作成できること。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の留意事項	講義形式にて、テキストを中心に、板書・説明を交えながら授業を展開していきます。トレーナー、インストラクターにとって、科学的根拠に基づいたトレーニングプログラム作成能力は必要不可欠な要素です。トレーニングを自分で実践できることは勿論、対象者のニーズに合ったプログラム作成能力が求められます。この授業を通じて、「分かる」ことの楽しさや、「できるようになる」ことの充実感を味わってほしいと思います。JATI認定資格保有者である教員が授業を担当します。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、トレーニング計画の立案1	授業の目的、到達目標、JATI認定試験について、超回復、フィットネスー疲労理論、デイトレーニング		
	2	トレーニング計画の立案2	オーバーロード、特異性、プログラム変数		
	3	筋カトレーニングのプログラム作成1	エクササイズの種類、マシンの種類、エクササイズの配列		
	4	筋カトレーニングのプログラム作成2	RM、様々なセット法、トレーニングシステム		
	5	筋カトレーニングのプログラム作成3	セットの組み方、特殊なトレーニングシステム		
	6	練習問題	JATIーATI練習問題の実施		
	7	筋カトレーニングのプログラム作成演習1	トレーニングプログラムの作成1		
	8	筋カトレーニングのプログラム作成演習2	トレーニングプログラムの作成2		
	9	トレーニング計画の立案3	ピリオダイゼーション1		
	10	トレーニング計画の立案4	ピリオダイゼーション2		
	11	筋カトレーニングのプログラム作成4	スローリフティング、スピードリフティング、専門的エクササイズ		
	12	パワー向上トレーニング理論1	パワーの概念、要素、RFD		
	13	パワー向上トレーニング理論2	トレーニングプログラム変数		
	14	パワー向上トレーニング理論3	パワー向上エクササイズ		
	15	まとめ	学習内容の復習、定期試験に向けて		

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	健康づくり運動の理論 19t351	担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	「健康づくり」を目的とした運動を幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。健康運動指導士筆記試験合格を目指す。				
到達目標	健康づくりを目的とした運動プログラムの目的を理解し、自身でプログラムを作成することが出来る。				
テキスト・ 参考図書等	プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動指導士養成40単位講習会」で行わない分野について学習します。一般層における「健康づくり」が目的の運動プログラムについて理解し、健康運動指導士合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	健康運動指導士の役割		
	2	トレーニング概論	トレーニングの原則、身体トレーニングを記述するもの		
	3	トレーニング条件と反応、トレーニング強度	特異性・トレーニング期間中の生体反応		
	4	筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果	トレーニング効果のメカニズム		
	5	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果	トレーニングによる筋持久力増加の背景		
	6	全身運動によるエアロビクトトレーニング	各種エアロビク運動強度の指標		
	7	障害者の運動能力の特徴とトレーニング	障害者にとっての身体運動の重要性		
	8	青少年期の成長発育とトレーニング	筋力、持久性能力の発達とトレーニング		
	9	女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング	女性のトレーナビリティ		
	10	加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング	加齢に伴う呼吸循環機能の変化		
	11	加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング	加齢と有酸素性トレーニング		
	12	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】	運動生理学		
	13	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】	機能解剖とバイオメカニクス		
	14	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】	健康づくり運動の理論		
15	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】	健康づくり運動の理論			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	体力測定と評価 19t352		担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	「体力測定と評価」について、幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。健康運動指導士筆記試験合格を目指す。					
到達目標	一般の方や内科的障害のある方に対して適切な体力測定を実施することが出来る。					
テキスト・ 参考図書等	プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	40%				
履修上の 留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動指導士養成講習会40単位コース」で行わない分野について学習します。対象者別における「体力測定と評価」について理解し、健康運動指導士合格に向けて学習して行きましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	オリエンテーション		健康運動指導士の役割		
	2	体力と運動能力		体力測定の活用法・適正な体力測定の条件		
	3	体力と運動能力		体力と運動能力の関係、年齢に伴う体力水準の変化および性差		
	4	フィールドテストの実習		新体力テスト(20～64歳)の測定項目および評価法		
	5	フィールドテストの実習		健康状態のチェック・各測定項目における測定法		
	6	高齢者の体力測定(持久力)		高齢者の持久力の特性と背景および測定上の留意点		
	7	高齢者の体力測定(持久力)		高齢者の持久力の測定および評価		
	8	高齢者の体力測定(筋力)		筋力測定の意義、高齢者の筋力測定種目および留意点		
	9	高齢者の体力測定(筋力)		筋力の評価、新体力テストの高齢者向け測定種目		
	10	介護予防に関する体力測定とその評価		介護予防における体力測定の意義、高齢者の身体活動能力のエビデンス		
	11	身体組成の測定		皮下脂肪分布の男女差		
	12	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】		運動生理学		
	13	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】		機能解剖とバイオメカニクス		
	14	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】		体力測定と評価		
15	検定対策試験、【40単位コース以外の分野】		体力測定と評価			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	組織管理とクラブ経営 19t353		担当教員 (実務経験)	和田 充永 有 ☒ 無 ☐ トレーニング指導者	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	・理想的な組織作りと効果的な組織運営の基本的認識を理解し深める。 ・健全な経営のあり方かつ永続的な経営のあり方を理解させる。				
到達目標	・組織とはどのようなものか、また組織管理の重要性が説明できる。 ・クラブ経営するための基本的概念を論じることができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	・プリントを中心に授業を行い、要点を理解させるとともに実体験等と話も交えて授業を展開していきます。 ・この授業により組織とは何か、経営とはどういうものなのか理解し、役立てて欲しいと願います。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	授業の目的、組織とは？理想的なクラブ運営の根本		
	2	組織管理①	組織管理とは？ポイントと現状		
	3	組織管理②	組織管理の具体策① 人間関係、組織のシュミレーション		
	4	組織管理③	組織管理の具体策② 指示、行動力等		
	5	組織管理④	組織の一員としてあるべき姿勢① スケジュール管理、健康管理等		
	6	組織管理⑤	組織の一員としてあるべき姿勢② 報告、連絡、相談、行動力等		
	7	組織管理⑥	組織を良くするために① コミュニケーション、信頼関係		
	8	組織管理⑦	組織を良くするために② アルバイト管理、チームワーク		
	9	組織管理⑧	組織の管理① スケジュール管理、チェック体制の強化		
	10	組織管理⑨	組織の管理② 研修のあり方、リーダーシップ		
	11	クラブ経営①	クラブ運営の意義、従業員の尺度、顧客の尺度		
	12	クラブ経営②	明確な目標① 目標設定、企画(アイディア)		
	13	クラブ経営③	明確な目標② 情報収集、分析点等		
	14	クラブ経営④	明確な目標③ 同業他社の動向、目標を明確にできない理由		
15	クラブ経営⑤	前期学習内容の復習、前期定期試験に向けて			

	16	クラブ経営⑥	挑戦と行動力① 挑戦とは？行動力とは？
	17	クラブ経営⑦	挑戦と行動力② 行動力の弱点、弱点を克服するために
	18	クラブ経営⑧	強固な信念と意志① 信念とは？なぜ信念が必要か
	19	クラブ経営⑨	強固な信念と意志② 信念と意志を強くするために
	20	クラブ経営⑩	プラス思考の身に付け方① プラス思考の成功例、成長力
	21	クラブ経営⑪	プラス思考の身に付け方② プラス思考の人間になるために
	22	クラブ経営⑫	顧客ニーズの発掘の仕方① 顧客ニーズの理解、売れるものの法則
	23	クラブ経営⑬	顧客ニーズの発掘の仕方② 顧客ニーズの生み出し方
	24	クラブ経営⑭	仕事を楽しむ① 楽しみからの行動、企画が生まれる
	25	クラブ経営⑮	仕事を楽しむ② 仕事を楽しくする方法、苦手な業務が好きになる方法
	26	クラブ経営⑯	自己の考え方の確立① 偏見、成長方法
	27	クラブ経営⑰	自己の考え方の確立② カンとヒラメキ、具体策
	28	クラブ経営⑱	学ぶ姿勢① 学ぶ姿勢の認識、利点
	29	クラブ経営⑲	学ぶ姿勢② 効率の良い学び方
	30	後期のまとめ	後期学習内容の復習、後期定期試験に向けて

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来学科／スポーツトレーナー 学科
SM/MT 専攻

授業科目 (科目ID)	障がいとスポーツ 19t354 / 19t336	担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 ☒ 無 ☐ アスレティックトレーナー、鍼灸師		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義(一部実習)	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	障がい者の心身を理解し、障がい者に対するスポーツ・運動指導技術や導入の仕方を習得する。				
到達目標	実際に障がいを持つ方に対して運動指導が出来る。				
テキスト・ 参考図書等	障がい者スポーツ指導教本(初級・中級)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	テスト、その他(受講姿勢、受講態度等を)考慮し、評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	ノート・筆記用具は必ず用意すること。「障害者スポーツ指導教本(初級・中級)」等の各種テキストの抜粋をプリント配布し、板書・説明を交えながら授業を展開していきます。必要に応じて各自で用意するものもあります。その都度指示します。様々な障がいについて、対象者に合わせたスポーツの導入の仕方などを学んでいき、楽しく授業を行っていきましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	授業内容と説明		
	2	障がいの理解①	障がい及び障がい者とは		
	3	障がいの理解①	障がい者福祉施策の理解		
	4	障がいの理解①	身体障がい①(聴覚障がい)		
	5	障がいの理解①	身体障がい②(視覚障がい)		
	6	障がいの理解①	身体障がい③(肢体障がい)		
	7	障がいの理解①	知的障がい①		
	8	障がいの理解①	知的障がい②		
	9	障がいの理解①	発達障がい①		
	10	障がいの理解①	発達障がい②		
	11	障がいの理解①	精神障がい		
	12	障がいとスポーツ	障がい者スポーツとは(意義と理念)①		
	13	障がいとスポーツ	障がい者スポーツとは(意義と理念)②		
	14	障がいとスポーツ	障がい者スポーツの組織や歴史		
15	障がいとスポーツ	障がい者スポーツ指導者制度について			

	16	定期試験の振り返り	定期試験返却、解答、解説
	17	障がいの理解②	高齢者の障がいについて①
	18	障がいの理解②	高齢者の障がいについて②
	19	ボランティア論	ボランティア論①
	20	ボランティア論	ボランティア論②
	21	障がい者・高齢者施設	デイケア・デイサービス①
	22	障がい者・高齢者施設	デイケア・デイサービス②
	23	運動療法	運動療法と安全管理
	24	障がい者スポーツとレクリエーション	レクリエーションの基礎(実習)
	25	障がい者スポーツとレクリエーション	レクリエーションの応用(実習)
	26	障がい者スポーツとレクリエーション	レクリエーション総合演習(実習)
	27	障がいの理解③	障がい者スポーツ総合演習①(実習)
	28	障がいの理解③	障がい者スポーツ総合演習②(実習)
	29	まとめ	学習内容の復習・定期試験に向けて
	30	定期試験の振り返り	定期試験返却、解答、解説